

会 議 録

内容承認	公開・非	＜開催日＞令和4年3月31日（木） ＜時 間＞13:00～15:00 ＜場 所＞岸和田市役所 新館4階 第1委員会室	＜傍聴人数＞ 1名 ＜傍聴室＞同左
新川会長	公開の別		
承認	公開		

＜名称＞ 令和3年度第3回 岸和田市総合計画審議会

＜出席者＞委員 20名中 17名 ○は出席、■は欠席

新川	久	窪田	池島	藤田	新井	松阪	中川
○	○	■	○	○	○	○	○
田口	沖藤	高原	久禮	中井	音掬	山田	武田
○	○	○	○	○	○	○	■
齊藤	鳥居	道下	小関				
○	■	○	○				

事務局）総合政策部：西川部長

企画課：貝口課長、中井担当長、前田主任、上田担当員

＜議題＞

- 1 開会
- 2 次期総合計画の基本構想案について
- 3 次期総合計画の基本計画素案について
- 4 その他
- 5 閉会

＜会議内容＞

■開会

■議題2について事務局から説明を実施

■意見表明及び質疑応答を実施（以下のとおり）

【委員】

市長の掲げた公約が分からないので、お示しいただきたい。

【事務局】

今後、基本計画の重点目標案と合わせてお示ししていく。

【委員】

30～33 ページにかけての基本目標と岸和田市を強くする“3つの視点”について、内容はこれでよいが、まち・ひと・しごと総合戦略の視点で移住・定住促進や出生率の向上など、人口減少

対策に取り組む目標が無いように思う。他の自治体の総合計画をいくつか見たのだが、基本目標に加えて、重点目標といった形で移住・定住促進を掲げていたり、出生率の向上も含めて目標人口を設定している。私の意見に対しては、引き続き検討することのだが、重点目標という設定はしないまでも、34 ページの将来人口の方向性の中で、めざすべき方向性を記載すべきだとあらためて申し上げる。

34 ページの 6 行目の文章を見ると、人口減少のスピードを緩やかにすることをめざしますと記載している。結局、緩やかにして具体的には何人をめざしていくのか、聞かれることになると思う。目標人口として設定することができないなら、将来人口の方向性というタイトルでもいいと思う。例えば、「子育て世代の転出入の均衡を図るなど移住・定住を促進するとともに、出生率を向上させることにより、人口減少のスピードを緩やかにして、2034 年に〇人となることをめざします」というような記載をするのはどうか。いずれにしても、あらためてまち・ひと・しごと総合戦略の趣旨を踏まえた上で、記載をご検討いただきたい。

【事務局】

総合戦略の要素は、基本計画部分に反映していきたいと考えている。

そのような中、子育て世代の転出入の均衡を図り、移住・定住を促進するという視点は方向性として持っているので、そのあたりも引き続き検討していく。また、具体的な数字については、国立社会保障・人口問題研究所の推計データなどを確認しながら検討する。

■議題3について事務局から説明を実施

■意見表明及び質疑応答を実施（以下のとおり）

【委員】

基本計画素案の内容は、おおむねよいと思う。これは市民に配布されるのか。

【事務局】

引き続き内容をブラッシュアップさせていただいて、実際に計画書策定の段階で公表する。

【委員】

基本計画のレイアウトがよく、見やすい。加えて、一つひとつのテーマに関する、市の窓口や相談先が記載されていればもっとよいと思う。その他、45 ページの誤字を修正していただきたい。

【委員】

市の窓口については、基本計画において関連部局という形でお伝えさせていただくことを考えている。ただし、組織体制が見直しによって変わるところもあるので、引き続き検討していく。

【委員】

人口減少の中で、基本的な考え方としてコンパクトシティの考え方を取っているという理解でよいのか。

【事務局】

拠点・プラス・ネットワークというイメージである。都市構造の部分で拠点へのアクセス性向上を示しているが、必ずしも駅周辺や市街地周辺だけではなく、実際に人が住んでいるエリアを上手くつないでいく仕組みが求められると考えられる。

【委員】

移動手段として様々なことが考えられているし、まちづくりでも実験をしようとしているのは承知している。大阪市内でデマンドバスやデマンドタクシーの実証実験を行っているが、かなり大がかりである。そういうことを含めて、コンパクトシティや都市間交通については、課題解決がなかなか難しい。

【委員】

岸和田を強くする“3つの視点”の中に「多様性を尊重しあう岸和田の絆の発展・活用」とあるが、多様性と言っても高齢者や障害者、LGBTQ など様々である。最近、「多様性の尊重」という表現がよく使われており記載していると思うが、もっと計画の中で具体的に記載することはできないか。

現計画でも「男女共同参画の実現」について記載され、10 年前から比べたら少しは実現したかもしれないが、引き続き取り組むことが必要である。多様性の実現についても、もっと具体的に示していただいたほうよい。

【事務局】

例えば、LGBTQ を一つとっても、違う立場から見ればそれだけではないという意見も想定される。そのため、担当課と調整し、個別計画の表現と合わせ、「様々な」という言葉に包含することとした。

【委員】

基本計画の各ページの右下部分に「Uni-Voice」とあるが、何が記載されるのか。

【事務局】

視覚障害者の方も内容が分かるように、読み取って、音声で聞くためのコードを記載する。

【委員】

47 ページに関連して、行政の役割を検討する際の視点として、老老介護、8050 問題、障害者においては老障介護という課題を考える必要がある。これに関しては、サポートの視点や体制づくりということが必要である。

もう一点、31 ページの事業者・団体・地域などの役割として、「障害者の特性に応じて合理的配慮が行われるように支援する」という項目を追記してほしい。

【委員】

47 ページの公民の役割に、「ジェネリック医薬品（後発医薬品）を積極的に利用する」や「軽度な不調は自分で手当てするなど、セルフメディケーションに取り組む」などがあるが、国の医療費

削減政策をそのまま記載しているように見える。国がジェネリック医薬品を推進した結果、メーカーの生産管理がずさんで生産中止が起り、先発医薬品に逆戻りしている状況もある。あまりジェネリックと書きすぎず、記載を工夫していただきたい。

他方、新型コロナが流行っていて、かかりつけ医を持たない人が検査で右往左往し、困っている状況が見受けられる。我々としては、患者さんにかかりつけ医を持っていただき、薬のことはじめ気軽に相談できる体制をつくりたいと考えているので、そのような内容の記載を検討していただきたい。

【事務局】

ジェネリック医薬品の推進などについては、記載を再考する。かかりつけ医に関しては、市民意識調査の中で把握しているので、指標を活用しながら皆さんの意識改善につなげていきたい。

【委員】

理想的なことを実現するための財政基盤はどうするのか。税収をどうやって上げていくのか。そのためには産業振興をどうするのか。市民生活はもちろん大事だが、そのために財政基盤を持っていないと実行できない。

【事務局】

財政基盤については、基本目標「みんなでつくる持続可能なまち」の中の個別目標「持続可能で信頼される行政になっている」の中に位置づけている。その中で、行政内部において財政の構造改革、ICT技術の活用等による業務の効率化など歳出抑制の取組を進めるとともに、市税に加え公営競技など歳入確保を推進していくこととなる。

一方、産業振興は、74 ページの個別目標「活発な経済活動が行われている」に位置づけ、事業者への支援や創業支援などを進めることとしている。

【委員】

環境としての緑とは別に、産業としての緑があると思うが、計画に「林業」という言葉が出てこない。確かに岸和田は林業が弱いが、山の方を見たら森がある。環境としての緑だけではなく、産業としての緑をどのように取り扱っていくのか、林業をどのように位置づけていくのかということも大事である。

【委員】

私たちの団体の事業において、子どもたちのために取り組もうと考えることがあっても、行政側との連携がうまくいかず、実現できないことが多い。

本当の意味で、子どもたちが輝けるような取組をするのであれば、家庭も事業者も行政もつながれる仕組みが必要である。そのため、基本計画の「各主体をつなぐ取組や公民連携の取組例」が機能すれば、素晴らしいと思うが、本当にできるのかは不透明である。

【事務局】

今抱えている現状を見る化し、目標を明らかにすることで、皆の意識を合わせていくものが基本計画である。皆が共有できるよう現状の課題とめざす方向性を記載し、協力しあって進めていく

必要がある。

【委員】

総合計画は分野ごとの記載が多いが、現実には分野はあまり関係ない。社会福祉協議会では、子どもから高齢者、障害者など様々な人に対しての支援ができるため、色々な団体の取組などをつなぎながら、トータルで取組を進めていきたいと考えている。

【委員】

子育て世代が岸和田から離れていくことを考えたとき、その人たちが求めるものは何か。医療助成等の支援なども理由としてあると思うが、私は文化的・教育的に満たされないから出て行くということもあると思う。その点を深く考えると、義務教育が充実していないことや、子どもの安全が確保できないこと、行政や地域の手助けが足りていないことなど様々あると思うので、深掘りすることが必要ではないか。

【委員】

地域包括ケアシステムをより一層深化・推進することが求められているが、こういったものは地域で活動していても自然発生的に生まれてくるものではなく、行政の具体的な仕掛けが必要だと思う。きっかけとして行政の仕掛けが何事にも必要である。

【委員】

総合計画の推進にあたり、教育など分野ごとの財源は今後も確保できるのか。

【事務局】

厳しい財政状況を踏まえて、これまで行財政再建プランを推進してきた。一定の成果はあるが、今後も公共施設の老朽化など課題を多く抱えている。引き続き、行政の構造改革を行い、財源確保を進めていく必要がある。

【委員】

今年度、新たに事業費を投じて進めていく事業はあるのか。また、重点的に事業費を投入するものもあるのか。

【事務局】

毎年度、新規事業については、経営計画で内容を公表している。また、重点的に進めていく施策については、第3期戦略計画において重点目指す成果として位置づけている。

【副会長】

今の戦略計画と今回の基本計画を比べると非常にコンパクトになっていることが分かる。分かりやすくなったということだと思うが、一方で岸和田の特徴やめざすべき方向性が短い言葉で充分書ききれていないと思う。岸和田の今までの特徴、現在の特徴、これから4年間のめざすべき方向性、ここをもう少し書き加えられるような文章にしていきたい。

具体的にいうと、かつては岸和田といえば社会教育だといわれてきたと思う。また、地域委員の

活動で地区市民協議会を各地区で立ち上げたり、その拠点の一つとして地区公民館を建てていただいたり、もう少し大きなブロックで市民センターをつくっていただいたり、地域の方々が身近なところで活躍できるような場所を岸和田はつくってこられた。そういったところが地域活動であったり、生涯学習の場所として使われてきた。いいものがあるということを再認識し、次のステップにどうつなげていくのかという書きぶりがあればよい。

文化活動でいえば、マドカホールは市民参加でつくられて、運営にあたっても市民参加でやってきた伝統があるはず。岸和田らしい施策や方向性があればどんどん進めていけばいい。今の基本計画のレイアウトだと現状と課題は文章になっているが、行政がどうするか方向性が書かれた文章があるほうがわかりやすいので、考えていただきたい。

最後に、今回の総合計画では、テーマを分野ごとに分けているため、連携の部分が弱くなっている。つなぐという観点がまだ見えていない。重点項目に位置づけられるのを期待している。

【委員】

基本計画に SDGs のアイコンが記載されているが、生涯学習や郷土文化のページで、共通しているべきアイコンが抜け落ちているので、再度検討いただきたい。

82～85 ページの基盤整備の部分で、コンパクトシティという考え方が必要にせまられておらず切実さに欠ける。また、拠点へのアクセス性の向上の指標について、路線バスは人のいる収益性が高いエリアを通るため、再検討が必要である。

近年、市街化調整区域の景観形成などは、重要なポイントになっている。この点については、空き家対策も絡めてもう少し検討していくべき。

【副会長】

基本構想 38 ページの図にあるように、都市区域が開発により JR 線を越え、泉州山手線まで市街地がつながってきている。この中で、いかにコンパクトシティをつくっていけるかということを考えないといけない。山手の谷の部分にも集落があるため、ネットワークづくりが重要。岸和田の特徴を見越しながら考えていく必要がある。

【委員】

市街化調整区域では今後、人口減少が進み地域が維持できなくなってしまうことが課題である。また、財政面については、これまで箱ものをよくつくってきたが、これらの管理などに費用がかさむので、いかにバランスをとるかが重要である。

【委員】

総合計画の体系を見ても、他の自治体でよくある移住促進や相談デスクの設置、結婚に向けた出会いの機会の創出などを位置づけるところがない。人口動態や婚姻数は下がる一方で危機感を感じる。大阪府などをはじめ近隣でもそういった取組を進めているのに、本市は行わないのか。

【事務局】

方向性としては、本市に住んでいる人に住み続けたいと思ってもらえるような取組を進めるとしている。中にいる人を大切にすることで、外からの流入につながると考えている。

【委員】

他の自治体では、総合計画の重点施策を総合戦略として位置づけているところもあるが、本市の総合戦略はどうなるのか。

【事務局】

ご指摘のとおり、重点目標は総合戦略に該当するものとして整理を検討している。どこまで基本計画で記載できるかは検討するが、個別のKPIなど一部実施計画に記載することもあると思う。

【委員】

児童虐待に関する行政の窓口があるといいと思う。

【委員】

婚姻の話があったが、本市では、初婚年齢が低くて離婚率が高い傾向がある。ここ数年は新型コロナの影響だと思うが、将来的に人口にどう響くかは問題として残る。

現在の総合戦略には、非常に多岐にわたる取組が含まれているが、目的になじむもの、なじまないものがあるので、振り分けが今後必要になる。

【委員】

計画上、個別目標を達成するための手段として、ICTの活用などが挙げられているが漠然としていて、具体性がない。例えば、健康づくりの分野でアプリを活用することや、ある地域の事例では、移動販売車の情報発信にスマホを活用している。高齢者がスマホを使えないという先入観を持ちがちだが、事例を参考にし、進めていくことも可能であるため、具体的な内容を検討できるとよい。

■その他

【会長】

次回の審議会の開催日程については、事務局から令和4年5月下旬の開催で提案があったが、引き続き、各委員との調整をお願いする。

■閉会

以上

■次回開催予定

令和4年5月下旬頃（日時詳細については、事務局で調整）